



# 大社に 21世紀大社

各方面の委員により検討が重ねられ、2月6日には、具体的な整備計画の基礎となる報告書が市へ提出されました（概要は左下表）。

**大社を皮切りに市全体の観光を活性化**

この地域を重点的に整備することで、観光客の増加を加速させ、やがては、市内のあらゆる観光資源へとつなぎ、広域的な観光ルートを開発していきたいと考

えています。

そのためにも、この計画を受け、早急に門前町の整備方針をまとめることとしています。

平成18年度には、阿國座の基本的な設計をはじめ、用地の確保、整備などに取り組んでいく計画です。

観光振興のおたすねは  
観光政策課  
(6588)

## 21世紀大社門前町開発調査 検討会議報告書の概要

### 門前町再生の整備方針

#### 道路網整備の基本的な考え方

- ・歴史的地区内（出雲大社周辺）に進入する通過交通を排除するための地区外周幹線早期整備

#### 門前町再生の整備方針

- ・歩きたくなる道づくりや通りを楽しむ空間づくり（歩道、沿線建物修景、駐車場整備、空き店舗利用など）
- ・段階的に重点整備地区を設定

#### 温泉の活用と観光保養交流拠点の整備について

- ・温泉：神門通りの活性化資源（足湯、温浴施設）
- ・ご縁広場：観光保養交流拠点として整備

#### 旧大社駅周辺整備について

- ・駅舎は積極的な保存活用を図り、周辺は公園などとして整備

### 出雲阿國座の創設

#### 基本的考え方

- ・古典文化の総合的な情報発信
- ・歌舞伎を中心にすえた全国で唯一の劇場
- ・歌舞伎、芸能の歴史などが学べる博物館的機能

#### 施設の概要

- ・規模は延床面積4,000㎡、800席程度
- ・出演者と観客の交流スペースや展示スペースの設置

#### 建設地

- ・出雲大社球場

21世紀大社門前町  
開発調査検討会議  
小川峰夫座長

魅力あるまちづくりの起爆剤に

この提言をもとに、地元の関係者や地域の皆さんが一体となって、魅力あるまちづくりを実現していきたいです。

報告は大社を中心としたものですが、大社の観光が盛んになることで、全市、全県へ大きな波及効果があるものになると確信しています。

この提言をもとに、地元の関係者や地域の皆さんが一体となって、魅力あるまちづくりを実現していきたいです。



# にぎわいと活気を 門前町開発調査検討会議 報告書



出雲の観光といえば、あなたは何を思い浮かべますか。山陰を代表する観光地として名高い、国宝『出雲大社』。その門前町として発展してきた大社町の整備、活性化のため、昨年8月から検討を重ねてきた「21世紀大社門前町開発調査検討会議」から報告書が2月6日に提出されました。今回は、この内容をお知らせします。

出雲阿國座は、江戸期の芝居小屋を再現し、周囲の歴史的景観にあった風格のある建物が望ましいとの検討会議からの提案がありました(阿國座イメージ図)

### 市の観光シンボル大社門前町

市では、観光の振興は、商工業、農林水産業の発展や新たな文化の醸成に大きな効果があることから、観光振興を21世紀出雲の活力の源と位置づけ、交流人口1千万人の神話観光大国を目指しています。

そのため、昨年9月には、21世紀出雲神話観光大国の建設促進条例を制定し、観光地づくりや芸術文化・スポーツなどの大型イベントによる誘客に、一層力を注いでいます。

中でも、神話観光大国のシンボル空間である出雲大社門前町は県内外から年間200万人を超える観光客が訪れる山陰最大の観光地です。

### 大社観光の実情

大社地域は全国的な知名度を誇る出雲大社、世界文化遺産・歌舞伎を創始した出雲阿國、神楽や吉兆行事といった伝統文化など、全国屈指の歴史的文化資産を有しています。

しかし、道路網整備の遅れなどから、歴史的文化的資産や自然景観が十分に活かされているとは言えません。通過型の観光形態から脱却できないまま、門前町としてのにぎわいは昭和50年ころから、徐々に衰退してきました。門前町の中心軸をなす「神門通り」は人通りも少なく、まちの活気は失われています。

### 続々と誕生新たな大社の魅力

一方、平成19年春には県立古代出雲歴史博物館の開館が予定されています。

また、ご縁広場では、平成17年1月に待望の温泉（毎分390リットル、37.4度）がわき出るなど、観光資源として活用できる新たな魅力が続々と生まれようとしています。

### にぎわいと活気を創り出す

これらを踏まえて、門前町ににぎわいと活気を取り戻したいと、昨年8月「21世紀大社門前町開発調査検討会議（小川峰夫座長・委員22人）」を設置しました。